

平成26年度

防災教育推進モデル地域における学校・地域連携事業

事業報告書



横手市教育委員会




防災教育推進事業検討委員会 委員名簿

(敬称略)

NO	氏 名	所属・役職等	備考
1	岩 井 潤	秋田県教育庁保健体育課指導主事	
2	小 西 力	秋田県教育庁南教育事務所指導主事	
3	川 井 縁	横手市役所危機管理課長	
4	鎌 田 広行	横手市消防本部警防課長	
5	安 部 禎	横手警察署地域課長	
6	松 井 寛信	旭地区会議代表	
7	高 橋 晋	横手市立旭小学校長	
8	坂 上 喜也	横手市立旭小学校PTA会長	
9	佐々木 孝雄	横手市立横手南中学校長	
10	岩 佐 信宏	横手市立横手南中学校PTA会長	
11	眞 壁 聡子	秋田県立横手城南高等学校長	
12	山 田 直美	秋田県立横手城南高等学校PTA会長	
13	土 田 充	横手市教育委員会教育指導課長	
14	高 橋 浩	横手市教育委員会教育指導課指導主事	




第 1 回防災教育研修会報告

横手市立旭小学校

実施日時	平成26年 6 月 27 日（金） 13：30～14：30
派遣機関	秋田地方気象台防災業務課
講師 職・氏名	秋田地方気象台 地震津波防災官 佐藤 宏哉 氏
テ ー マ	地震・津波の発生と秋田県内の地震について
参加者数	児童 5・6年生 122名
	職員 8名 保護者 10名
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地震発生メカニズムについて <ul style="list-style-type: none"> ・世界のプレートと地震大国日本 ・岩盤の破壊エネルギー ○緊急地震速報について <ul style="list-style-type: none"> ・P波とS波の特徴と緊急地震速報の原理 ・緊急地震速報を聞いたときの対処 ○地震が起きたときの対処の仕方について <ul style="list-style-type: none"> ・身の安全の確保と避難 ・さまざまな場面を想定した対処法と心構え ○津波発生メカニズムについて <ul style="list-style-type: none"> ・津波の到達速度、高さ、エネルギー ・地震が起きたときの対処の仕方 ○秋田県内で起きた過去の地震・津波とその特徴について <p>※全校生徒は午前中に、地震・火災を想定した防災訓練を実施した。 訓練実施後、横手市消防本部からの協力を得て、発達段階に応じて次の体験型講習会を実施して、防災意識の向上を図った。</p> <p>〔内容〕 1・2年 防災ダック 3・4年 ミニ放水訓練、水消火器訓練 5・6年 応急手当、心肺蘇生訓練</p>
感 想	<p>○今日のお話で、地震が起きた時の逃げ方や避難の仕方、津波が起きる原理などのことを学びました。「横手には津波はこない。」と油断せずに、しっかりと避難しようと思いました。（5年女児）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;">    </div>

第 1 回防災教育研修会報告

横手市立横手南中学校

実施日時	平成26年 7 月 16 日（水） 14：00～15：45
派遣機関	秋田地方気象台防災業務課
講師 職・氏名	秋田地方気象台 火山防災官 佐々木 貴史 氏
テ ー マ	地震・津波から身を守るために
参加者数	生徒 495名
	職員 40名 保護者 86名
講義内容	<p>○地震や津波が起こるメカニズムについて</p> <p>○地震や津波から自分の命を守るためのポイント</p> <p>【地震】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず自分の身を守る。落ち着いて行動することが大切 ・「自助」→「共助」→「公助」が災害対策の基本 <p>【津波】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく速やかに高台へ避難 ・津波が見えてからでは逃げ切れない <p>○緊急地震速報のしくみと利用の心得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の状況に応じて、あわてずに、身の安全を確保すること ・適切な対応をとることで被害を軽減できる
感 想	<p>○地震や津波の発生のメカニズムと、災害が起きたときの適切な行動の仕方について、たいへん分かりやすく説明していただいた。特に「自分の命を自分で守る」ために、地震が起きたときに、どのような行動を取ったらよいかイメージすることができた。「救助される人でなく、救助する人を目指したい。」というお話は、この後行われる、防災訓練の避難所運営を行っていく上で、大事にしていきたい考え方だと感じた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

秋田県総合防災訓練（避難所開設訓練）

実施日時	平成26年 8 月 31 日（日） 8：00～12：30
会 場	横手市立横手南中学校
参加者数	生徒 165名（3年生） 担当教職員 14名 市担当者 25名
	地域住民 151世帯 325名
訓練想定	<p>8月31日（日）午前8時、横手盆地・真昼山地を震源としたマグニチュード8.1の地震が発生し、本市では震度7を観測した。家屋の倒壊、道路の損壊等とともに火災も発生しており、各地で住民主体の初期消火や要援護者の避難支援等が行われている。また、電気・電話・水道・ガス等のライフラインが停止しており、避難所の早期開設が待たれる。</p> <p>秋田県と横手市では、直ちに災害対策本部を設置し、人命救助を最優先した応急対策活動を実施している。消防、警察、自衛隊は捜索救助活動を開始するとともに、DMATも救護活動を開始している。さらには、多数の遺体が発見されていることから遺体安置所を開設、遺体収容と検視が行われている。</p> <p>開設された避難所には、援助物資の搬送が始まるとともに、災害ボランティアの受け入れも開始され、自衛隊等による炊き出しも始まった。</p>
避難所開設	<p>【組織（8班編制）と主な業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 総務—避難所開設・運営本部、避難所レイアウト指示、外国人対応 2) 避難者管理—避難者受付、安否確認への対応、避難者名簿の作成 3) 情報広報—特設公衆電話設置、掲示板設置と情報掲示、館内放送 4) 救護—傷病者の応急手当、医療機関との調整、避難者の健康相談 5) 衛生—ごみ集積所や簡易トイレの設置、ごみ収集、ペット対応 6) 食料物資—支援物資の受け入れ・仕分け・配給、炊き出しの配膳 7) 施設管理—車両誘導、緊急車両等のスペース確保、避難所見回り 8) ボランティア—ボランティア受付、要援護者の介護、避難者の誘導 <p>〈組織編成に関わる留意事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の生徒会組織（委員会）ごとに業務を割り当てる。 ・避難してきた地域住民の代表者も総務班に加わる。 ・ボランティア受付した高校生も上記班のいずれかに属し、活動を行う。

【実際の流れ】

時間	班	主たる動き	備考
8:00		地震発生 生徒避難開始 ※写真1	※写真1
8:06		生徒安否確認・避難完了	
8:20		施設の応急危険度判定 ※写真2	※写真2
8:25		避難所開設担当職員集合 ※写真3 避難所開設準備、立入禁止区域表示	※写真3
8:30	開設本部	市本部より避難所開設要請 各班に開設作業指示	 ※写真4
	総務	識別ビブス配付 避難所レイアウト表示 配置図、組織図の作成と表示	
	避難者管理	避難者受付の設置	
	情報広報	掲示板の設置・情報収集ツールの設置	
	救護	応急救護所の設置	
	衛生	ごみ集積所、簡易トイレの設置 ペット飼育スペースの設営	
	食料物資	避難者スペースの設営	
	施設管理	緊急車両スペースの確保	
	ボランティア	福祉避難室の設営 ボランティア受付の設置 ボランティアスペースの設営	
8:46	施設管理	非常用発電機作動の開始 緊急車両誘導の開始	 ※写真5
9:04		避難者の受入開始	※写真6
	総務	英語、韓国語による施設等の表示	 ※写真6
	避難者管理	避難者名簿の作成 ※写真4	
	情報広報	特設公衆電話の設置 応急救護所開設の放送	
	救護	応急救護活動開始 軽症者・体調不良者の診察 ※写真5 避難者の健康相談	
	衛生	トイレ点検の開始 消毒用アルコールの設置	
	ボランティア	受付者を避難スペースへ誘導 要援護者を福祉避難室へ誘導	
9:20	開設本部	市本部へ避難者の受け入れを報告 給水車等の手配も依頼	
	医師到着		
9:45	施設管理	燃料運搬車到着、燃料受取	 ※写真8




時間	班	主たる動き	備考
9:50	開設本部	本部会議※写真6 避難者数の確認 避難者要望聴き取り（ごみ回収の要望有り）	※写真9 
	避難者管理	男女別、年齢別人数の報告	
10:00	総務	市本部へ避難所の状況を報告 毛布等の手配も依頼	※写真10 
10:07		給水車到着	※写真7 
	情報広報	給水車到着の放送、情報掲示※写真7	
	食料物資	給水車からの給水開始※写真8	
	ボランティア	ボランティア受付※写真9	※写真11 
10:15	救護班	体調不良者の救急搬送を依頼※写真10 （活動中に消防団員が負傷したことを想定）	※写真12 
10:25		支援物資運搬車両到着 （飲料水、レトルト食品等）	※写真11 
	情報広報	支援物資支給の放送	
	食料物資	支援物資搬入、支給※写真11	
10:55	食料物資	炊き出し、配膳スペースの設営	※写真13 
11:15	総務班	市本部へ避難所の状況を報告	※写真13 
11:20		自衛隊による炊き出し完成※写真12	
11:43	食料物資	炊き出しの配膳※写真13	
12:15		自主運営組織の立ち上げと引き継ぎ	

【感想】

- 災害時における緊急事態への対応として、例えば、学校では学年や委員会という日常的に活動している組織、地域では町内会や区、班といった行政単位の組織を上手に機能させていくことがいかに大事であるかということを感じました。
- 小・中学生には災害発生時にまずは自分の身の安全を図る「自助」が最優先されますが、避難先（避難所）においては、自分のできることを協力して行う必要があります。中学生には、十分にその力が備わっており、地域の一員として「共助」を支える大きな力に成り得ることを確信しました。大切なことは、いざという時に備え、多くの中学生にこうした機会や経験を積ませることではないでしょうか。
- この訓練を通して、誰かに助けてもらう意識よりも、誰かのためになれるように活動していきたいという意識や気持ちの高まりが生徒たちに見られるようになりました。これからの学校生活において大いに期待しています。



第2回防災教育研修会報告

横手市立旭小学校

実施日時	平成26年11月20日（木） 10：20～11：10
テーマ	防災訓練（地震・火災想定）、秋田県総合防災訓練に参加して
参加者数	児童 391名
	職員 15名
内容	<p>○防災訓練（全校児童） 休み時間中の地震発生とその後の出火を想定。児童は自分の判断で、安全な経路を選択し、避難する。</p> <p>○学級活動（1～3年生） 防災訓練の振り返りや話し合いを行い、振り返りカードに記入する。 ・自分の判断や周りのアドバイスで適切に避難することができたか。 ・災害に対する心構えや生命尊重の態度について意識できたか。 ・問題点や今後気をつけたいことについて意識できたか。</p> <p>○防災研修会（4～6年生） ・秋田県総合防災訓練（避難所開設訓練）VTR視聴 ・訓練参加児童4名による体験作文発表 ・校長講話「上学年としての防災に対する心構え」</p>
感想	<p>○避難訓練は、児童に予告せず休み時間に実施しましたが、高学年が低学年に声をかけたり指示したりして迅速に避難できました。また、第1回防災訓練での指導事項を多くの子どもたちが身に付けており、地震では身の安全を確保する（落ちない・倒れない・動いてこない）、火災では煙をさけて低い姿勢で避難する等が実践できました。</p> <p>○研修会では、県総合防災訓練に参加した児童が学んだこと、感じたことを上学年で共有できました。段ボールで仕切られた避難場所で予測される困難、避難所で協力し合うことの大切さなど、発表児童の話に全員が耳を傾けることができました。</p>
	  

第 2 回防災教育研修会報告

横手市立横手南中学校

実施日時	平成26年12月10日（水） 13：25～14：45
派遣機関	横手市役所危機管理課
講師 職・氏名	次長 川 井 縁 氏
テーマ	冬季の災害への対応
参加者数	生徒 495名
	職員 40名
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災の災害現場の実情について ○横手市の冬季の環境と過去の積雪時の地震の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・積雪期の最大被害が予想されるのは地震による被害 ○雪と地震の複合被害について <ul style="list-style-type: none"> ・秋田大学と連携して検証中 ・積雪や倒壊した建物により、住民が徒歩で避難所へ到達できてくれないことが考えられる。 ・自分の命を守ることができたら家族の命を守る。それができたら、高齢者などの困っている人への手伝いをして欲しい。若い人たちの力が大切になる。 ○冬季の災害に備えて <ul style="list-style-type: none"> ・「自分（家族）の命は、自分で守る」 ・通常除雪活動が減災に大きくつながる。 ・非常用食糧等の準備 ・冬季の防災訓練では安否確認（避難場所の確認）の仕方も確認が必要である。
生徒の感想	<p>○積雪時の逃げ方や避難経路が分りませんでした。東日本大震災の時の被害や命の大切さや、命の大切さを改めて考えることができた。地震や大雨にうよる被害を拡大させないために、協力し合っ、たくさん守って、笑顔と暮らした。思いまじ、多くの人々の笑顔と暮らした。思いまじ、多くの人々の笑顔と暮らした。思いまじ、多くの人々の笑顔と暮らした。</p> <p>○災害の大切さを改めて感じた。地震や大雨にうよる被害を拡大させないために、協力し合っ、たくさん守って、笑顔と暮らした。思いまじ、多くの人々の笑顔と暮らした。思いまじ、多くの人々の笑顔と暮らした。</p>
	 

本事業のまとめ

1 事業の趣旨

本事業は、学校と地域住民の防災対応力向上のため、モデル地域における校種間及び地域住民並びに専門的機関等と連携した防災教育の実施に向けた計画の策定、それに基づく具体的な取組に対して支援を行うことにより、実践的な防災教育を推進することを目的として実施する。

2 事業の内容

期日	事業名	主な内容
6月3日(火)	第1回検討委員会	今年度の取組、事業内容の検討
6月27日(金)	旭小第1回防災研修会	体験型講習・講話(講師:佐藤宏哉氏)
7月16日(水)	横手南中第1回防災研修会	講話(講師:佐々木貴史氏)
8月19日(火)	第2回検討委員会	研修会報告・事業の進捗状況の確認
8月31日(日)	県総合防災訓練	自主防災訓練・避難所開設訓練
11月20日(木)	旭小第2回防災研修会	県総合防災訓練の振り返り・体験発表
12月10日(水)	横手南中第2回防災研修会	講話(講師:川井 縁氏)
2月末	事業総括	検討委員へのアンケート・報告書作成

3 成果(○)と課題(△)

- 実践的な訓練や研修会の実施、事前事後の指導の充実を図ったことで、児童生徒の防災意識が高まった。今後とも、発達段階を踏まえた防災教育の指導内容の充実が求められる。
- これまで学校中心で行ってきた防災教育を、関係機関や地域関係者と意見交換したり、連携を図ったりしたことで防災教育推進の裾野が広がった。また、PTAの際に研修会を行うなどの工夫を図ることで、保護者の防災に対する意識を高める機会にもなった。
- 児童生徒が様々な訓練を経験することによって、災害時において大切な「自助・共助・公助」の精神を育むことにつながった。
- △学校と地域が連携して防災対応力を高めていくために、今ある学校と地域のネットワークや組織をどう維持したり、活用したりしていくか。
- △「学校は地域の一員であり、災害時には地域の最重要拠点になる」という認識の下、地域の一員として学校に何ができるかを考えていく必要がある。
- △系統性のある防災教育が進められるように、小中高の連携や情報交換をより緊密に行う必要がある。
- △訓練や研修会の学びを一過性のものにせず、日頃から防災や減災を意識させるための日常的、継続的な取組を検討していく必要がある。